

選出されたグッド・プラクティス・ストーリー（優良事例）は、「3年に一度の祖谷のかずら橋架け替え」をテーマにしたものです。

年間約30万人の観光客が訪れる「祖谷のかずら橋」は日本三奇橋の一つに数えられ、国の重要有形民俗文化財に指定されており、かずら橋保勝会によって3年ごとに架け替えが行われています。今も昔ながらのやり方で、自然の材料を用いほぼ手作業で架け替えを行っています。近年は材料となるシラクチカズラが手に入りにくくなっています。

そこで、森林管理署と「木の文化を支える森づくり協定」「祖谷の蔓橋シラクチカズラ資材確保協定」を締結したことや、地元の子供たちと植樹を行うなど、様々な持続可能な取り組みを行っていることが、国際的な認証機関であるグリーン・ディステーションズから持続可能な優良事例であると認定されました。



三好市が選出されました 世界の持続可能な観光地 TOP100 選



日本からは、岩手県釜石市、神奈川県箱根町、香川県丸亀市、京都府宮津市、徳島県三好市、愛媛県大洲市、長野県小布施町、熊本県小国町、北海道弟子屈町、鹿児島県与論町（与論町）の10か所が選出となっています。

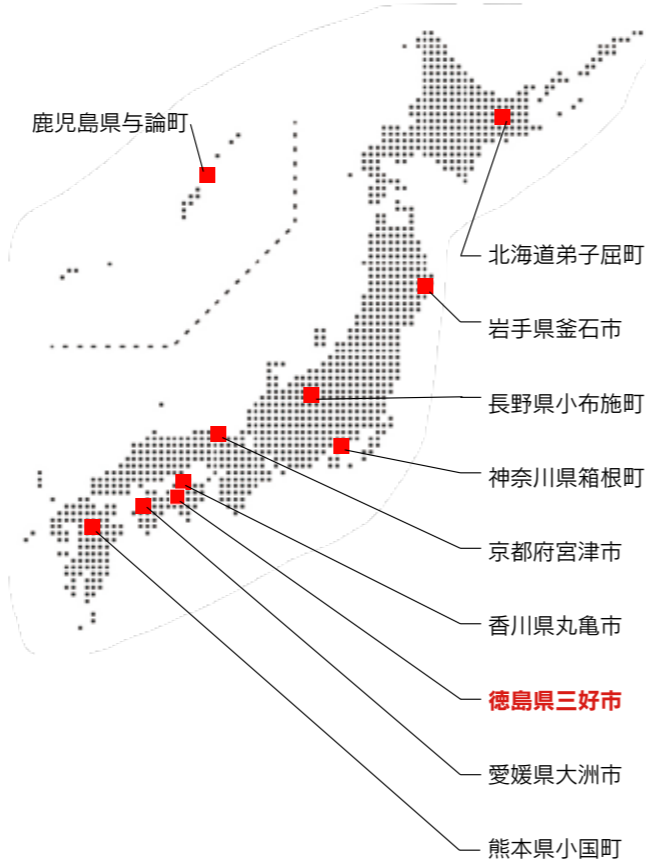
2022年に続き、選ばれた100か所の1割が日本の地域となりました。高齢者や障害者の*モビリティ性を向上させた神奈川県箱根町、名産の団扇制作に*マイスター制度を取り入れた香川県丸亀市、伝統の藤織りの継承・保存を試みる京都府宮津市、一大観光資源である伝統的な吊り橋を維持する徳島県三好市、などとなっています。

*モビリティ性 — 交通の便の良さ

*マイスター制度 — 経験や知識を持つ専門的な職人を育成する制度



2023年に日本で選出された10か所



世界の持続可能な 観光地 TOP 100 選

TOP 100 DESTINATION SUSTAINABILITY STORIES 2023